

平成 22 年 5 月 11 日

九州大学大学院経済学研究院

産業マネジメント専攻長 村藤 功 殿

出張等報告（記録）書

報告者

ICABE 学生交流推進プロジェクト

教員代表

経済学研究院 教授 村 藤 功

同 准教授 朱 穎

同 特任教授 丹羽 由一

学生代表

産業マネジメント1年 木部 匡之

同 丸山智恵子

同 崔 耿美

記録（全体取りまとめ）

産業マネジメント1年 李 良子

大学改革推進等補助金による出張を下記のとおり行ないました。ご報告申し上げます。

記

1. 費用の負担

100周年記念事業寄付金

2. プログラム名称

ICABE 学生交流推進プロジェクト（第12回）

3. 用務地

中国（上海、常熟）

4. 用務先

DBJ 上海事務所、JETRO 上海センター、みずほコーポレート銀行（中国）有限公司、西部技研環保節能設備（常熟）有限公司、上海交通大学

## 5. 用務の概要と事業の関連について

### <用務の概要>

学生間討論会(上海交通大学)、在上海日系金融機関訪問、西部技研環保節能設備(常熟)有限公司現場視察

### <事業の関連>

International Consortium of Asian Business Education (ICABE) に基づく学生間交流、中国経済関係者との交流を通して、現地の最新事情把握による発展著しい中国経済に対する理解の深化、提携先ビジネススクールとの連携強化のためのネットワーク形成

## 6. 出張日程

平成22年2月25日(木)~28日(日)

## 7. 参加者 合計33名

### <教員>3名

村藤功教授、朱穎准教授、丹羽由一特任教授

### <産業マネジメント専攻1年>10名

木部匡之、崔耿美、丸山智恵子(以上、学生リーダー)

小西陽子、高橋直喜、西健一、秦野久実子、真鍋道子、水上文藝、李良子

### <産業マネジメント専攻2年>14名

池田泉、磯貝健哉、出田貴宏、河本敬嗣、木村憲介、黒田将允、宣虎長、鄭自力、寺崎一生、寺田敏秀、本多信幸、松本和也、宮本伸治、八尋大八

### <経済学府修士>6名

孫百恵、張青、森田高文、BREWER DUSTIN JAMES、TUMURBAT MUNKHJARGAL、DASHI JAMTS BAYARMAA

## 8. 日程詳細

平成22年2月25日(木)

08:30 福岡空港国際線ターミナル集合

10:00 MU532便 福岡発

12:00 上海着。貸切バスにて上海市内ホテルへ移動

13:00 ホテル到着。チェックイン、昼食。

15:00 DBJ上海事務所 訪問

・・【活動報告】

16:00 JETRO上海センター 訪問

・・【活動報告】

18:00 JETRO上海より夕食会場へ移動

19:00 夕食(その後ホテルへ)

[宿泊] SOFITEL Hyland Shanghai

平成22年2月26日（金）

- 09：00 ホテルロビー集合、移動
- 10：00 みずほコーポレート銀行（中国）有限公司訪問 ・・・【活動報告】
- 11：30 みずほコーポレート銀行より上海交通大学へ移動
- 12：15 上海交通大学 到着（その後昼食）
- 13：30 上海交通大学との交流プレゼンテーション
  - 中国の風水（上交大） ・・・【活動報告】
  - 福岡から上海への農産物の輸出（QBS） ・・・【活動報告】
  - 中国における医療器械市場（上交大） ・・・【活動報告】
  - 日本の漫画ビジネス（QBS） ・・・【活動報告】
  - 中国の食文化（上交大） ・・・【活動報告】
  - 環境ビジネス（QBS） ・・・【活動報告】
- 17：00 貸切バスにて夕食会場へ移動
- 18：00 夕食（その後ホテルへ）  
〔宿泊〕SOFITEL Hyland Shanghai

平成22年2月27日（土）

- 07：30 ホテルロビー集合、移動
- 10：00 西部技研環保節能設備（常熟）有限公司 ・・・【活動報告】
- 11：30 常熟東南經濟開發区本部
- 14：30 蘇州視察  
〔宿泊〕SOFITEL Hyland Shanghai

平成22年2月28日（日）

- 午前 上海市内自由視察
- 15：00 ホテル出発、貸切バスにて上海空港へ移動
- 16：00 上海浦東国際空港 到着
- 18：10 MU531便 上海発
- 20：40 福岡空港着、解散

以下、活動報告および参加学生感想

## 【活動報告】企業訪問「DBJ 上海」

テーマ：中国の動向について

説明者：DBJ 事業投資株式会社 上海代表処 主席代表 古田善也

(DBJ：日本政策投資銀行 *Development Bank of Japan Inc*)

記録者：産業マネジメント専攻 6期生 寺田敏秀

### 1．中国の最近の経済運営

中国は、リーマン・ショックの中、4兆元経済対策を行い、絶好のタイミングで国際的存在感を高めている。

中国経済工作会議は、国際的配慮をもったミクロ政策を行っており、2007年では、財政政策は穏健、金融政策は緊縮的であったものが、2009年には、財政政策は積極的、金融政策は適度に緩和的に行っており、国内外で巧みな使い分けを行っている。

中国は、昨年未から金融と不動産への引締を強化しているが、先進各国の失政(バブル)を研究済みだからである。

今年の春節小売額(中国の正月)は、過去最高3,400億元(GDP構成比)であり、好景気が窺われる。

2010年のポイントは、利上げと通貨の切り上げ(景気過熱対策、米ドル)である。

### 2．オリンピックと万博の意味

中国は、10年タームでシンボリック開発とお披露目イベント(オリンピック等)を用意するなど、国際的な演出を巧みにやっている。(例：1987年香港返還の頃は、広州等の沿岸部華南で製造業をターゲットに開発した。1990年代は、上海で貿易物流業・金融業を開発、2000年代は、内陸西部で均衡発展に取り組んでおり、2010年代は、天津で環境に取り組む計画である。)

### 3．中国の指導者(政治経済動向を見るツボ)

経済成長率7%は、中国にとってマイナス成長の評価となる。

13億人の国民を喰わせるためには、エネルギー問題が重要である。

内内格差(民族問題と農民問題)がある。

共産党の一党体制で決定事項は即実施となる。また行政官が政治家になっており、もともと知識レベルの高い政治家が、月次勉強会でさらに専門性を高めている。

CIC(中国投資有限責任公司)は、米投資ファンドのブラックストーンや米大手証券会社のモルガンスタンレーへの投資で失敗しているが、原因は融資の専門家がいなかったためであり、今後の中国は、人材の適材適所が課題である。

### 4．中国とは何か

中国は、規模が大きく、どの分野でも世界一になってしまう国である。

全てが正しい価値観となってしまう。(10元140円で定食を食べることが出来る一方、30元もするスターバックスのコーヒーが売れている。)

中国は、欧米や日本とは異なる価値観で発展を続けるであろう。

#### 5. これから進出する日本企業へ(銀行の立場から)

中国のほぼ隅々まで金余りで、開発系特区が乱立している。

日中・中日間ビジネスに関わる日系事業者側の差別化戦略が有効であり、中国側のリクエストは、日本の技術導入と企業紹介である。

国営企業とのトラブルで裁判となれば中国側が有利な判決となる。民営企業は、コンプライアンスに不安があり、パートナーとしては一長一短がある。

#### 6. 進出日系企業の苦悩

中国の行政担当者が代われれば規制・税制の運用変更となることが多い。

企業の運営や債権回収を中国人に任せると、その人物の影響力が大きくなり過ぎて、オーナーのような振る舞いをする場合がある。

外貨調達は、「投注差管理」という規制がある。

中国進出には、台湾系企業をパートナーとすれば安心感があるが、最終的には日系企業の判断である。

中国人には、売れるものは真似するのは当然との感覚があり、知的財産権の解決には時間がかかる。

中国では、企業が一度進出したら、容易に撤退できない制度となっている。

中国人は、保守的な消費行動のため、使用しているブランドをなかなか変えない。

#### 7. 中国と付き合う上で

視察者には「中国はすごい!」か「中国の荒探しで終わる。」パターンがあるが、日本で出来ないことを、ここ(上海)で取り組んで欲しい。

日本の政権交代について、中国人から質問を受けることが多い。

台湾問題は、タブーであるので話題にしないこと。

中国(上海)には、人と街に活気があり、日本人も元気である。

## 【活動報告】企業訪問「JETRO上海」

テーマ：中国・上海の現状について

説明者：日本貿易振興機構 上海代表処 経済情報部長 志村和俊

記録者：産業マネジメント専攻 7期生 真鍋道子

### 1. 訪問の概要

訪問日：2010年2月25日（木）16:30~17:00（現地時間）

訪問先：ジェットロ上海センター

〒200336 上海市延安西路2201号 上海国際貿易中心319室

### 2. 説明の要約

#### (1) 世界における中国の位置づけ

- ・ 2007年のWHO加盟以降、小売が自由化され「市場」として中国を捉える。
- ・ かつては世界の「工場」として機能していた（日本企業はまだそう考えている）。
- ・ 徐々に「市場」として捉えられつつある（欧米企業）。
- ・ 世界のバイオ企業の上位10のうち、6社が中国（上海）にあるので、バイオ企業にとっては、優秀な人材の源泉 = 「頭脳」
- ・ 中国の内需が拡大していて、レアメタルなどの希少金属類が中国に集中しているので、将来的には再び「工場」となるのでは？  
見る立場によって、中国の見え方が違う！

#### (2) 中国における上海とは？

- ・ 「中国」という言葉は、「ヨーロッパ」と同じくらい広い意味を持っている。
- ・ 3つの見方・・・地域、年齢、所得
- ・ 地域での格差（一人当たりのGDP）
  - ✓ 上海市はトルコ並み
  - ✓ 最下位の貴州省はアフリカと同程度
  - ✓ 中国全体で見ると発展途上国に入り、104位
- ・ 世代間でも異なっている。
  - ✓ 文化大革命により高等教育が受けられなかった世代（59~49歳）の人材が不足している。
  - ✓ 文化大革命を経験しているために、30代後半よりも上の世代は、「過ちを認めない」「責任を転嫁する」といわれる。
  - ✓ 一人っ子政策によって過保護に育てられている30代以下の世代は、素直で積極的だが自信過剰で、権利意識が強い。

「中国」を主語にして語るのは禁物

### ( 3 ) 中国の国民性

- ・ 最も重要なことは、「メンツ」、メンツを立てて売り込むことが有効。
- ・ 携帯電話や、家、車などは自分の名刺代わりでメンツを示すものとして重要
- ・ 中国は個人主義、日本は村社会、集団主義
- ・ 欧米企業は、中国のことを冷静に見ていて市場性を見出している。距離があるので、意思決定も現地法人にゆだねている、早い。結果としてマツダ車よりもフォード車の方が売れている。
- ・ 韓国・台湾の企業は、日本よりも小さく中国に近いので選択と集中をきちんと行なえている。覚悟を持っている。
- ・ 日本企業は、距離が近く同じアジア人という意識のため、冷静に観察できていない。意思決定が遅い。

似て非なる国「中国」と「日本」

### ( 4 ) 中国との付き合い方

- ・ Beyond China
  - ✓ 中国の次は中国 もっと内陸・農村へ ( P&G は進んでいる )
- ・ 高齢化
  - ✓ 生産人口が 2013 年に減少を始めるといわれている。
  - ✓ 日本よりも急速に高齢化が進み、約 3 人で 1 人の高齢者を支える時代が来る ビジネスチャンス有り。
- ・ 3G から 4G へ
  - ✓ 携帯の国際規格 4G を中国企業が獲得しようとしている。
  - ✓ 携帯が名刺代わりとなっているため、農村にも携帯電話が浸透し、中国移動は 5 億 6 千万人、チャイナコムは 3 億 4 千万人という膨大なユーザーを持っている。
  - ✓ シェアで勝つ アフリカ展開を有利にできる。
- ・ 「メンツ」から、「きれい、かわいい、きもちいい」へ
  - ✓ メンツからソフト面の実感へ価値が移行してきている。

## 【活動報告】企業訪問「みずほコーポレート銀行（中国）有限公司」

テーマ：中国関連業務の紹介

説明者：みずほコーポレート銀行（中国）有限公司

中国アドバイザー部 部長 近藤修一氏

記録者：7期生 木部匡之

はじめに

- ・中国において中国人個人の顧客に対して銀行業務はできない。
- ・8割が日系企業、2割が欧米系・台湾系・香港系

### 1．中国における銀行取引

外貨と人民元で大きく業務が分かれており、外貨については規制がある。

#### 1-1. 外貨口座の概要、種類

- ・外貨口座の開設には、国家外貨管理局の許可が必要なものがある。（資本金口座、外債口座、など）
- ・外貨口座は全て目的別に分類されており、他目的での使用はできない。
- ・外貨口座の開設は原則、お客様が所在する地区を管轄する国家外貨管理局分局の管轄地域内にある銀行に限られるケースがある。
- ・資本金口座、外貨決済口座、外貨専用口座、について説明

#### 1-2. 中国での口座開設（人民元）

- ・みずほは、本店（上海）、北京、大連、深セン、無錫、天津、青島、広州、武漢の9店舗で人民元業務を取扱っている
- ・主な人民元業務として以下の業務がある
  - 預金（普通預金、定期預金、通知預金、協定預金等）
  - 決済（中国国内における人民元建送金、送金の受領等、人民元建手形、小切手の取立・決済）
  - 融資（貸出、商業・銀行手形割引等）
  - 保証（履行保証、入札保証等）
- ・外貨資本金専用口座開設手続きの流れ、経常銀行取引（資金決済、資金調達（設備資金）、資金調達（運転資金）、海外との資金決済）について概要の説明

### 2．アドバイザー業務の紹介

- ・中国ビジネスの再構築、企業提携・M&A、既存拠点の事業再編サポート、与信管理体制サポート、現地法人設立サポート、販売金融体制構築サポート、直接金融調査・助言、財務会社の設立・運営サポート、を実施。

### 3．アドバイザー体制・ネットワーク

- ・中国全土における、みずほコーポレート銀行従業員数 約1,100名
- ・中国アドバイザー部 上海：34名
- ・日系コンサルティングチーム、非日系コンサルティングチーム、F/A・リサーチチームに分かれ、専門性の高いサポートを実施

#### 4．みずほ中国アドバイザーサービスの強み

- ・過去20年以上にわたって日系企業の中国投資コンサルティング活動を通じ蓄積してきた豊富な実務知識やノウハウを活かした情報提供・助言の提供が可能、など。

#### 5．質疑応答

Q: 現地法人を作った際に、ビザは問題ないか？

Ans: 現地法人があれば、基本1年ごとの更新。人によって長期の場合もある。

Q: どんな企業から相談が来るか？

Ans: 民営企業の相談が多い。業界はさまざま。

Q: 委託貸付と、ファイナンスカンパニーの違い、広がりとは？

Ans: 委託貸付は、1対1で資金のやり取りをする。ファイナンスカンパニーは中国では財務会社と呼ばれる。知る限りでは4社（そのうち、2社は日系）。委託貸付と財務会社の間、資金のプーリングを行う仕組み（委託貸付の制度の上での仕組み）がある。財務会社は、銀行業務をやっていることと一緒。グループの中の企業に金融行為（銀行行為）を行う、という仕組み。設立のみならず、その後の管理が非常に大変。

Q: 行員の定着率はどうか？

Ans: 景気が悪かったため、最近定着率はよい。他企業から、定着率の悪さを耳にすることはある。

Q: 今後、人民元が切り上がった場合、中長期的にみずほコーポレート銀行の業務内容が変わっていくのか？

Ans: 為替に左右されず、日系企業のサポートの拡大、中国における欧米・中国企業の与信の拡大、中国での業務拡大、という流れにある。

Q: 採用はどのように行っているか？

Ans: 大卒は1年に1回。一昨年は30名の募集に対し、10,000通の履歴書。昨年は同じく30名の募集に6,000通。学部生、修士生に拘りはない。現在もインターンで30名ほど働いている。日本向けの話であれば日本語試験もある。中途採用は不定期で、人材紹介会社等に頼んで希望するスペックの人材を求めている。

Q: アドバイザリ業務の料金体系は？

Ans: どこまで深く、時間をかけ、人を配置して実施するかによって大きく変わる。事務所を作るだけと、工場を作るとでは大きく異なる。

【活動報告】企業訪問「西部技研環保節能設備（常熟）有限公司」  
中国・東南アジアに進出する日本企業向け省エネ機器の製造工場

説明者：西部技研環保節能設備（常熟）有限公司 中山文男氏、泉宏暁氏、坂井正直氏  
記録者：6期生 宮本伸治

【株式会社西部技研について】

- 当社は九州大学の研究者であった、創業者の隈利實によって 1960 年代半ばに設立されており、本社 / 工場を福岡県古賀市に置く企業である。主な製品は、全熱交換機、デシカント除湿機等であり、昨今の環境保全、省エネルギーの必要性が増す時代の流れに乗って成長を続けている。
- 全社員数は約 200 名であるが、「機能性ハニカム技術」というコア技術を活かして事業展開を行う中堅メーカーである。また、スウェーデン、アメリカ、中国（常熟）に工場を有し、積極的にグローバル展開を推進している。

【当工場の位置づけ】

- 当工場は、先週操業を開始したばかりであるが、主力製品の全熱交換機、除湿機の組み立てを行っている。なお、機器の主要部品、高機能部材は、本社工場より当工場へ運び入れ、中国で調達した部品と合わせて組み立て、完成させる。
- 想定している市場（対象顧客）としては、中国を含む東南アジアに進出が増えている日系企業と欧州である。

【今後の展開】

- 中国市場における当社のプレゼンスを高めるために、まずは、政府系施設への導入を実現し現地での実績を積むことが、その端緒になると考えている。中国では、法律の制定や施策の実施について検討を開始してからその実行までの時間が短く、動き出すと変化が早いと感じている。そのため、政府要人からの情報発信には常に注意を払っている。

【所感】

中山氏のお話によると、上海市の電力需要はほぼ九州全体の需要規模と同程度になってきているとのことであった。今後も、中国の GDP の伸びは年率 8 % 程度を目指すものと思われ、その実現のためにはエネルギーの確保が大前提となる。

21 世紀最大の課題と言われるトリレンマ、すなわち経済成長（Economy）、エネルギー確保（Energy）、環境保全（Environment）の克服に向け、この会社の活躍の場が今後も拡大していきそうな印象を受けた。

以上

## 【活動報告】上海交通大学 チーム1プレゼンテーション

テーマ：中国の風水

説明者：上海交通大学ビジネススクール チーム1

記録者：7期生 李良子

### 1. 風水の概念

風水は道教の自然観に基づいた三千年前に中国で発祥した長い歴史のある学問で、人体、土地、住宅、時間、宇宙、心理など、万物を扱うもの。金、木、水、火、土という五つの元素の調整により、バランスを取り、住人に健康や富などを齎すこと。

### 2. 中国人の生活に馴染まれた風水

風水は中国人の日常生活において、インテリアのデザインや子供に名前をつける時など、よく使われている。風水が良い住宅に住むと、家族と一緒に健康に暮らすことや、お金を得ることが可能と言われる。中国人は金製の飾り物を置いたり、金魚などを飼ったりする。子供に名前をつける時は、生まれた時に欠いた元素（金、木、水、火、土）を名前で補充する。よく見られる名前は、鑫、森、淼、焱、百という中国漢字を付けた名前である。

### 3. 中国ビジネスにある風水

中国人が会社を設立する時は、会社名を慎重に考えるだけでなく、住所と周辺環境もよく考える。高架橋、高いビル、病院を避けて、水や山に近いところは良いと思われている。香港ディズニーワールドを築く際には、ディズニーのエグゼクティブは風水大師に問い合わせ、繁栄のために正門を12度ぐらい調整するようにした。良いエネルギーを海の方に流れてしまうことがないように、駅からの歩道に曲がりも加えた。中国で8という数字はお金と関連するので、888平方メートルの舞踊場も設けた。台北の101タワーの前にも風水噴水がある。

### 4. 風水による2010の予言

中国である有名な女性の風水師が2010年の予言を紹介された。

### 所感

上海交通大学の学生は時間がない中で準備であったが、面白いテーマに創意工夫がなれた。中国風水の独特な文化の中に、ビジネスチャンスが隠れ潜んでいることを気づいた。しかし、残念なのは、中国での風水ビジネスの規模やビジネスモデルなどを紹介されていなかった。どのような機会が存在するのかという彼らならではの分析を次の機会では聞いて見たいと思う。

## 【活動報告】九州大学ビジネススクール チーム1プレゼンテーション

テーマ：Agricultural Products from Fukuoka to Shanghai

説明者：九州大学ビジネススクール チーム1

6期生 出田貴宏、黒田将允

7期生 秦野久実子、崔耿美、小西陽子、木部匡之

記録者：7期生 木部匡之

### 【発表概要】

- ・ 私たちの住む、九州・福岡は農業が盛んである。工業製品のみならず、付加価値のある福岡ブランドの農産物を輸出することは、福岡県において重要な取組みとなっている。福岡ブランド代表の1つ、“あまおう (SweetKing)”を上海に輸出するための考察を行い、最後に上海の学生へ「あまおう (SweetKing)”を食べてみたいか？」聞いてみることにした。

#### (1) 福岡県の農業を取り巻く環境

- ・ 日本の農業生産高・人口は縮小し、国内消費の先行きは暗い。
- ・ 一方、九州はフードアイランドである。(日本の農業出荷額の19%を占める。)
- ・ 日本は僅か1.2億人で都市も小粒。それに比べ中国は10倍以上の人口を抱え、上海をはじめ東京並みの都市が数多くあり、魅力的なマーケットである。また、1人あたりGDPは急成長しており、今後、食品においても高級志向へシフトすることが予想される。また、日本から中華圏向けの農産物輸出は拡大している。

#### (2) 福岡ブランド“あまおう (SweetKing)”

- ・ 日本の各地方には、高付加価値農産物がある。福岡県では“あまおう (SweetKing)”というブランドいちごがある。日本国内での人気のみならず、香港、台湾、シンガポール、タイ、ロシア、アメリカなど海外へ輸出が行われており、好評を得ている。

#### (3) ロジスティックスから見た“あまおう (SweetKing)”の上海展開戦略

- ・ “あまおう (SweetKing)”の産地である福岡と上海の間には高速輸送船(上海スーパーエクスプレス：SSE)が就航し、海外へ輸出において好評を得ている。
- ・ SSEはわずか28時間で結ばれ、チルド輸送にも対応している。
- ・ “あまおう (SweetKing)”は、航空輸送、一般船舶輸送に比べ、SSEによる輸送に適している。他の宅配サービス等と組み合わせることで、上海の家庭まで“あまおう (SweetKing)”を届けることが可能となる。私たちはSweetKingRoadを作りたい。

#### (4) ディスカッション

- ・ 他のいちごとどう違うのか?という質問があった。一般のスーパーで販売されるノーブランドのいちごと、ギフト用のあまおうの写真を見せ、ブランドいちごのイメージを理解してもらった。
- ・ 上海の学生も大きさに興味を惹かれ、「ぜひ食べてみたい」とのことだった。

## 【活動報告】上海交通大学 チーム2 プレゼンテーション

テーマ：China Medical Device Industry Current Situation and Trends

説明者：上海交通大学ビジネススクール チーム2

記録者：6期生 宮本伸治、本多信幸

### 【発表概要】

中国の医療機器産業の概要や抱える課題、外資系企業が中国市場に参入する場合に留意すべき点について説明がなされた。説明内容のポイントは以下のとおり。

#### ( 1 ) General Situation

- ・ 2005 年以来、中国の医療機器の市場は、米国、日本に次ぐ世界第 3 位の規模であり、近年、年間約 14% 成長している。中国の医療機器産業は、真珠川デルタ、長江デルタ、環渤海デルタに集中しており、国内の約 80% の売上げを占める。
- ・ 生産される医療機器は、超音速の診断ユニット、デジタルエックス線システム、MRI、CT 等様々である。2006 年の中国の輸入総額は 18.2 億ドル、輸出総額は 31.6 億ドルで、輸出入先のトップ 3 は米国、日本、ドイツである。

#### ( 2 ) Problems

- ・ 商業腐敗防止慣習法の制定、割り当て制度、低い研究開発投資、研究成果の移転難等

#### ( 3 ) Trends

- ・ 中国国内の約 18 万箇所の病院・診療所のうち、約 15% は 1970 年代に製造された機器を使っており、より高性能な医療機器へのニーズは高い。また、SARS 発生後、医療機器の導入が進んでおり、患者の方でも良質な医療サービスへのニーズが高まっている。
- ・ 研究開発機関における研究開発の加速、投資の拡大、高級な機器の増加等が傾向としてみられる。

#### ( 4 ) Suggestions ( 外資系医療機器メーカーにおける中国市場戦略 )

事前の研究：

- ・ 何が中国市場で注目されているのか、市場の状況と傾向、政府の政策・規制等を事前に研究しておくことが重要であり、上級の NPO 法人を活用することがポイント。

業者登録：

- ・ 時間がかかること、規制製品は回避すること、NPO 法人を活用することがポイント。

価格戦略：

- ・ 販売促進に向けた投資、価格帯のコントロールが重要。

卸売業者の選択

- ・ 強みの統合、販売網の拡大、売上高とサービスネットワークが重要。また、アフター

サービスとメンテナンス、革新的なビジネスモデルが重要。

製造

- ・ 政府の資源と一般市民との連携、販売チャネルの確保、特許保護、模倣品対策が重要。

#### 【質疑応答】

- ・ Q B S 側から、外資系企業が中国市場に進出する際にはプレリサーチや業者登録のところで N P O 法人の活用が重要とあったが、その理由や、N P O 法人が仲介することが一般的なのかと質問したのに対し、上海交通大学側からは、政府とつながりのある上級の N P O 法人（政府から許認可を受けた法人）があり、そこを上手く活用することで規制等への対応、行政機関等との連携等の面で融通が利くであろうとの回答があった。また、N P O 法人が外資系企業を仲介するのは、現状では未だ一般的ではないということであった。

#### 【所感】

- ・ 中国に N P O 法人があることに少々違和感を持ったが、意外にも多くの N P O 法人が存在することが後の調べで分かった。しかしながら、それらは一般的に政府の管理下に置かれたものであり、日本の N P O 法人の定義とは異なる。中国の N P O 法人の実態と役割をもう少し詳細に聞くことができれば、外資系企業の中国ビジネス参入の参考になったと考える。
- ・ また、今回の上海交通大学側のプレゼンテーションは、特定業界の概要紹介であり、ディスカッション・ポイントの提示がなかったため、意見交換しづらい状況であったのは残念であった。

## 【活動報告】九州大学ビジネススクール チーム2プレゼンテーション

テーマ：A business that has developed in Japan but not yet in China

説明者：九州大学ビジネススクール チーム2

6期生 木村研一

7期生 丸山智恵子、李良子

記録者：6期生 宮本伸治、本多信幸

### 【発表概要】

- ・ 日本のマンガ産業を紹介し、中国において日本のようなマンガ市場を構築するためにどのような方策があるか、ディスカッションを行った。発表等のポイントは以下のとおり。

#### (1) 日本のマンガ産業の紹介

- ・ 日本のマンガ市場、マンガからの派生市場、マンガのバリューチェーン、著名人や一般の方に影響を与えてきたマンガの持つ力等を紹介。
- ・ また、上海交通大学側の交流会参加者への事前質問の結果から、中国ではオリジナルなマンガが生まれていないこと、子供だけでなく大人になってもマンガに親しむ消費者層を生み出していないことを明らかにした。

#### (2) マンガビジネスの成長のための要素は？

- ・ QBS側から複数のコンテンツを含むマガジンの出版からスタートさせることを提案。

(このようなコミック雑誌は幅広い年代で楽しめ、どこでも楽しめ、社会的な階級や貧富の差を超えて楽しめるものである。これにより、息の長い消費者を生み出しうる)

#### (3) ディスカッション

テーマ1「マンガは中国で成長産業となりうるか？」

- ・ このディスカッション・テーマに対し、上海交通大学の学生からは、中国では著作権の問題がクリアされていないことや、Webサイトで無料閲覧が可能となっていることから、成長産業になることは難しいと思うとの意見があった。
- ・ また、上海交通大学の学生から、特に若い世代にとって、マンガ雑誌の価格は高いものであり、買わないのではないかと、つまり市場が育たないのではないかと意見もあった。これに対し、QBS側からは、コミック雑誌の価格は、想定では約20円程度に抑えることが可能であり、更に、市場の拡大やコンテンツの再利用を踏まえると、大幅に引き下げうることを示唆した。

テーマ2「どのように(中国で)マンガ市場を創造するか？」

- ・ Q B S 側からは、日本のように連載もののコンテンツを含むコミック雑誌を定期発行することを提案した。しかしながら、これに対する反応は鈍かった。この背景には、中国では、日本のようなコミック雑誌でマンガを読む習慣はなく、Web で読むのが一般的であるという事情がある。それでは、中国には、日本のようなコミック雑誌は無いのかといえば、種類が限られているが存在する。ただし、それらの対象は子どもを想定したものであり、日本人の青年層やマンガ好きな中国人には満足できるものではないとの意見が出された。

#### 【所感】

- ・ 中国人で日本のマンガを読む人口は意外に多く、熱烈なマンガ愛読家も存在することを、意見交換などを通じて認識した。しかし、インターネットで日本のマンガの中国語訳版を無料で閲覧できる環境にある中、今回、Q B S 側が提案したコミック雑誌の市場創造・確立に向けた戦略は、もう一段の工夫が必要であることをあらためて認識した。
- ・ 中国で知的財産権のルールやインターネット上での法規制などが整備され、国民に広く浸透しなければ、日本のようなマンガ産業・市場の創造は困難であろう。これは、コンテンツなどソフト産業に強みを有する日本にとって、ビジネスチャンスの大きな喪失であるが、それは同時に、中国にとっても、コンテンツ産業の育成がままならない環境を生み出す要因ともなっている。中国の行政政府及び産業界は、この点を十分に認識し、今後、知的財産権の保護に向けた環境整備に努めることを期待したい。

## 【活動報告】上海交通大学 チーム3プレゼンテーション

テーマ：中国の食文化

報告者：上海交通大学ビジネススクール チーム3

記録者：6期生 八尋大八

発表内容：

世界三大料理の一つと称される中華料理。広大な国土と長い歴史を持つ中国では、それぞれの地域で独自の食文化が発達してきた。甘い、辛い、しょっぱいなど味の違いを持つだけでなく、各地で取れる様々な食材を調理し、生けるものすべてが食材であるという。さらに、調理方法も「煮る、焼く、炒める、蒸す」などの基本的な調理に加え、それぞれの中にさらに「煮出す、煎る」といったような細かい調理方法の違いが見られることも印象深かった。また、近頃日本でも有名になった豆板醤やXO 醤などに代表される調味料も奥が深く、にんにくや生姜など古来日本に渡来したスパイスや香草などもふんだんに使用される。このような中華料理の多様性が「食は中華にあり」といわれる所以であり、中国が世界に誇る偉大な文化のひとつであるといえる。

今回の報告では、このような中華料理の中でも報告者の郷土料理を中心に発表が行なわれた。ともに上海に隣接するエリアの郷土料理であったが、広東料理、上海料理、湖南料理、四川料理などそれぞれ異なる味と料理が紹介され、様々な色合いを織り交ぜた一品一品が食欲をそそった。とくに辛味を特徴とする四川料理と湖南料理では、山椒を使った麻と唐辛子による辣という二種類の辛さがあり、日本人が辛いといった場合にイメージする唐辛子以外にも山椒を使った、痺れるような辛さを利用することで、辛味という1つの味を確立している点は中華料理の奥深さを改めて認識させられることになった。

所感：

QBS と上海交通大学の学生ともに時間がない中での準備であったが、それぞれに発表の内容についても創意工夫がなされ、今回の訪問と出会いを互いに歓迎する思いであふれていたように思う。お互いの文化や考え方の違いを受け容れたうえで、それぞれの意見を真剣に議論できる場であったことは、ICABE の主旨と目的に合致したものであった。しかし、上海交通大学の学生による発表の中にビジネスの要素がなかったことが唯一残念だった。ビジネススクールの学生として、中国の食文化を日本、そして世界でのビジネスチャンスとして捉え、どのような機会が存在するのかという彼らならではの分析や発想を次の機会では聞いてみたいと思う。

## 【活動報告】九州大学ビジネススクール チーム3プレゼンテーション

テーマ：環境ビジネス

説明者：九州大学ビジネススクール チーム3

6期生 鄭自力、寺田敏秀、八尋大八、

7期生 高橋直喜、西健一、真鍋道子、水上文藝

記録者：7期生 高橋直喜

### • プレゼン概要

環境問題は一国の問題に留まらず、世界共通の課題である。中国の環境汚染が日本に影響を及ぼすことがある。そこで、本プレゼンにおいては、特に生ゴミ処理問題について、『四里四方に病無』をコンセプトに発表した。

『四方四里』とは、自分の生活圏の16km四方の事であり、身近な環境において、自分たちが主体となり、Recycling Net Workを構築することを提案するものである。環境にもやさしく、そこに住む人々も健康に暮らせるということである。

具体例として、西鉄ソラリアホテルの生ゴミ処理の実例を発表した。ソラリアホテルでは、生ゴミを自社プラントで乾燥処理し堆肥に加工する。その堆肥を農家に販売し、そこで収穫された農産物をホテルのレストランで提供している。まさに、Recycling Net Workである。

生ゴミ処理するプラントの紹介をした。中国において、このプラントを導入しRecycling Net Workを構築する上で、障害となる事項を検討した。

### • 質疑応答

コストを誰が負担するのか？ ゴミの分別の課題 管理の問題 等が指摘された。について、行政の支援・法律の制定が必要と回答した。について、モラルを徹底するため行政が率先し啓蒙する必要を説明した。について、地域自治に委ねる方法を提示した。

また、交通大学に留学中の学生より、フランス・ドイツ各国のゴミ処理事情について発表をしていただいた。

質疑応答の時間が、大変長く活発な意見交換が行われたことは、中国の学生の関心の高さを表すとともに、テーマの重要性を再認識する結果となった。